

「伝えたいこと」

三重県 四日市市立羽津中学校3年

中前 純奈

そのニュースを見た時、しばらく言葉がでませんでした。今年の7月、神奈川県「津久井やまゆり園」で知的障がい者19人が殺される事件が起きました。この事件は悲しい、ひどいという感情だけではなく、私を動揺させました。多分それは私の姉に知的障がいがあるからです。

私が小4の頃から、8歳年上の姉より私の方ができるようになってきました。靴の紐を結ぶのに時間がかかり、お金の計算が苦手な姉に、イライラし腹を立てたりしてきました。姉と一緒に外を歩くと周囲の目が気になり、隣を歩きたくないと思う時もあります。しかし、その反面、優しいなど感じることもあるのです。私ともう1人の姉が喧嘩をした時には、喧嘩の理由がわからなくても仲裁に入り、私をなぐさめてくれます。私が

「頭、痛いな・・・」

とえば、とても心配し

「ポカリ買ってこようか？」

など面倒をみてくれようとしています。産まれた時から一緒に暮らしている姉だから、腹が立つことがあっても、けっして嫌いにはならないし、このままの姉でいいと思っています。

けれども、私と同じ考えの人ばかりではないのだと感じる時があります。

ある日、部活の帰り皆疲れて、駅のホームに座りこんでしまった時がありました。

「ここ、すわってると一、みんなの迷惑に一なると思いますー。」

と知的障がいの人が優しく言ってくれました。

「すみません。」

といい立ち上がった人がほとんどでしたが、

「しゃべり方、やばいね。」

と笑いながら立ち上がった人もいました。私はその言葉を聞いた時、なんだか姉のことも馬鹿にされているようでとても悔しかったです。そして、こういうことを言う人、障がい者を見た目や行動だけで判断するのではなく、障がいがある人の内面のいいところをたくさん知ってほしいと感じました。

そこで、人権についての授業後の感想に、姉の障がいについて気持ちを書いてみました。

すると数日後、それを読んだ先生から学年通信に載せたいと言われ、私はとても嬉しくなりました。なぜなら、皆に姉のような障がいがある人やその家族の気持ちを伝えられるチャンスだったからです。

その学年通信が配布された日、帰りの会で、クラスの皆の前で通信を読み、そのあとに、「みんなの障がいがある人に対する思いを少しでも変えてくれたら、私のように一緒に暮らしている家族も、少し気持ちが楽になると思います。そして、そんな家族をみている姉達も、とても嬉しいと思います。」

と、自分の気持ちを話しました。

しかし、話し始めると自分がクラスメイトにどう思われているのかと怖くなり、手は震えてしまい、途中で涙もでてしまいました。とても恥ずかしかったけれど、自分の考えを伝えることができたので、スッキリしました。

帰りの会が終わると、クラスメイトが来て、声をかけてくれました。その中で

「俺、見方変えるわ。」

と言ってくれた人もいました。とても嬉しかったです。私の話を聞いて、見方を変えようとしてくれたことも嬉しかったし、正直に自分の気持ちを伝えてくれたこともとても嬉しかったです。このクラスメイトみたいな人がもっと増えていくといいなと思いました。

もしも、私の姉が知的障がいではなかったら、私も障がい者の人を見て、変な人だなあと思っていたかもしれません。しかし私には姉がいます。私は姉の障がいを個性だと思っています。出来ないことが多い姉でも、私達家族を和ませてくれる大切な存在です。だから、世の中の人達にも、親しみを持って接して欲しいです。接することが難しいのなら、せめて温かい目で見守って欲しいです。障がい者がいなくなればいいなんて思わないでほしいです。障がいがあるからといって傷つけないでほしいのです。

私は将来、姉のような、「障がい」がある人がその人らしく安心して生活できるようサポートする介護福祉士になりたいです。そしてみんなの「障がい」に対する見方を変えていければいいなと思っています。